



週間情報



No.2920

発行日 平成29年5月30日

発行所 全国消防長会

一般財団法人全国消防協会

担当 企画部企画課 電話 03(3234)1321

両会の動き

◆ 第69回全国消防長会総会を開催

全国消防長会

平成29年5月24日(水)、愛知県名古屋市(ウェスティンナゴヤキャッスル)において、全国の消防長及び消防関係者が一堂に会し、第69回全国消防長会総会を開催しました。

総会における議案審議事項、報告事項、決議等については、次のとおりです。

【議案審議事項】

- 第一号議案 平成28年度事業報告及び平成28年度収支決算について
- 第二号議案 平成29年度事業計画(案)及び平成29年度収支予算(案)について
- 第三号議案 平成30年度国の予算概算要求に関する要望について
- 第四号議案 平成29年度及び平成30年度全国消防長会役員の改選について
- 第五号議案 事業推進委員会設置運営規程の一部改正について
- 第六号議案 ハラスメント防止宣言について
- 第七号議案 第70回全国消防長会総会の開催について
- 第八号議案 第69回全国消防長会総会決議について

【報告事項】

- 1 「平成29年度救急車適正利用PRポスター」のデザインの決定について
- 2 全国消防長会70周年記念事業検討委員会の動向等について
- 3 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等特別委員会の動向等について
- 4 第30回アジア消防長協会(イフカ)総会開催概要(案)について
- 5 大規模倉庫火災に伴う現地調査の結果について
- 6 NTTの固定電話網のIP化による利用条件の変更がもたらす諸課題に関する検討について
- 7 消防救急無線のデジタル化をめぐる談合について
- 8 「業務用ガス機器の設置基準及び実務指針(第6版)」の発行について
- 9 「第26回全国救急隊員シンポジウム」及び「第20回日本臨床救急医学会総会・学術集会」の開催について
- 10 電子会議室の運用状況等について
- 11 広報事務担当者研修会の実施について
- 12 一般財団法人全国消防協会の消防団体保険事業の現状と加入促進について

【消防庁長官講話】

「消防行政における現状と課題」
消防庁長官 青木 信之 氏

【消防庁見解】

「最近の消防行政をめぐる動向」
消防庁総務課長 米澤 健 氏

【配布資料】

- 1 役職別会員の異動状況について
- 2 平成29年度及び平成30年度事業推進委員会委員及び消防問題検討会委員の委嘱について
- 3 市町村の消防の広域化の進捗状況等について
- 4 消防指令業務の共同運用の状況等について
- 5 平成28年度消防行政相談について
- 6 法制執務研修会の実施状況等について
- 7 第46回全国消防救助技術大会のご案内について
- 8 賛助会員の紹介について



【総会の様子】

平成30年度国の予算概算要求に関する要望（抜粋）

平成28年度に発生した災害を振り返ると、4月の「平成28年熊本地震」は、観測史上初となる震度7の地震を2度観測したほか、10月の鳥取中部の地震など各地で大規模な地震が頻発している。さらに、8月に発生した台風第10号は、岩手県や北海道に甚大な被害を与え、12月には、新潟県糸魚川市で昭和51年の酒田大火以来となる大規模な火災が発生するなど、近年住民の安全を脅かす災害や事故等が続発している。

また、南海トラフ地震、首都直下地震等の巨大地震の発生も危惧されていることに加え、危険物災害等の特殊災害や世界情勢の悪化から国際的なテロ災害への備えも必要となっており、安全安心を守る最前線で活動する消防に寄せられる期待は、ますます大きくなっている。

このような状況下において、国においては、緊急消防援助隊及び常備消防力の充実強化はもとより、地域防災力の中核となる消防団及び自主防災組織等の更なる充実強化、火災予防対策の推進、消防防災分野における女性の活躍促進、防災情報の伝達体制の整備など、消防防災行政の推進に取り組んでいるところであるが、さらに災害に強い強靱な国づくりを進めるためには、国と地方公共団体が一体となり、先般の「熊本地震」などの災害の経験から得た課題と教訓を生かした防災対策に全力で取り組まなければならない。

しかし、経済情勢が依然として不透明であるとともに、さらに人口減少・少子超高齢社会による社会保障費の増大などが懸念されている。この状況の中で、地域住民の安全安心を守るために、消防力の基礎となる消防職員及び消防車両を確保し、消防庁舎や消防水利等のインフラ整備を進め、さらに将来の広域大規模災害等への備えを充実させることは、地方財政上大変厳しい状況である。

については、次の事項について、国による一段の地方財政への支援と地方公共団体の実情に即した財政制度の柔軟な運用及び制度の改善・調整が図れるよう、全国消防長の総意をもって強く要望する。

- 1 無償使用制度に係る今後のあり方について
無償使用制度により配備された車両等の更新について、更新計画を策定し、再配置や適切な財政措置を行うこと
- 2 広域的な消防体制の構築に向けた財政支援について
広域的な消防体制の構築を実現するために、広域化推進期限を延長すること
- 3 国庫補助制度の充実について
 - (1) 緊急消防援助隊設備整備費補助金について、零細補助基準額を廃止するとともに、補助基準額の見直しを行うこと
 - (2) 消防防災施設整備費補助金について、補助対象を拡充するとともに、十分な予算額を確保すること
- 4 地方交付税の所要額の確保について
災害や事故の多様化及び大規模化、都市構造の複雑化など消防を取り巻く社会環境に的確に対応できるよう、必要な経費を確実に積算し、地方交付税の所要額を確保すること

全国消防長会ハラスメント防止宣言

【基本的な考え方】

ハラスメントは、個人の尊厳と人格を侵害する決して許されない行為である。そのような行為は、被害者を深く傷つけるだけでなく、職場環境を悪化させ、業務の円滑な遂行に支障を来すことにもなる。

さらに、職場における損失のみならず、これまで積み重ねてきた住民からの信用はたちまち失墜することとなり、いったん失った信頼を回復するには多大な努力と膨大な時間が必要となる。

もとより、全体の奉仕者たる公務員には、ハラスメントとは無縁の高い倫理観を有することが求められている。その中でも、住民の生命、身体及び財産を災害から守る消防機関に寄せられる住民の期待及び信頼に十分応えるためには、消防職員はひとときわ高い倫理観を備えなければならない。

一方、消防の職場には、災害現場で安全、確実、迅速な部隊行動を遂行するため、指揮命令系統を明確にする階級が存在し、職員には、厳格な規律の保持が求められている。しかしながら、その結果生じる上下の関係において、指導という名目の下、ときには限度を逸脱する危険性などが存在している。

また、全国的に女性消防吏員の増加が図られているところであるが、いまだ男性が圧倒的に多いことから、職場では、男性を中心とした考え方が意図せず残っているおそれがある。そのため、セクシュアルハラスメントや、妊娠、出産をする女性消防吏員、育児休業等を利用しようとする職員に対するハラスメントが生じる懸念がある。

ハラスメントに関して、これら消防の職場特有の懸念が存在することを私たちは深く自覚しなければならない。

【 宣 言 】

私たち全国の消防長は、消防の職場に特有の階級制度や厳格な規律保持などがハラスメントに結び付く可能性を十分に認識するとともに、職員がその人格を互いに尊重し、能力を十分に発揮できる風通しの良い職場の実現を目指して、ハラスメント防止のために取り得るあらゆる方策の推進に不断の努力を行うことを宣言する。

【実践項目】

- 1 組織を挙げてハラスメント防止に取り組む方針等の明確化及び周知徹底
- 2 ハラスメントの防止及び解決のための体制整備
- 3 研修等の充実を通じたハラスメントに関する職員教育の徹底

決 議

わが国の自治体消防は、地域に密着した防災機関として、社会構造の変化等に的確に対応しながら、消防防災体制の充実・強化を図ることにより、地域住民の安全・安心の確保に大きな役割を果たしてきた。

そのようななか、昨年度においては、自然災害による人的被害や住家被害が各地で発生し、平成28年熊本地震では多くの尊い命が失われたほか、8月以降に相次いで上陸した台風などは周辺地域に甚大な被害を与えた。また12月には、新潟県糸魚川市で発生した市街地火災や2月の埼玉県三芳町倉庫火災など大規模な自然災害や特筆すべき災害が数多く発生した。

大規模な自然災害が頻発するわが国においては、東日本大震災をはじめとする大地震等の教訓を踏まえ、消防防災体制の更なる強化を図るとともに、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会及びラグビーワールドカップ2019といった国家的行事を控えたなかでのテロ災害などへの備えが喫緊の課題となっている。

特に、今後発生が危惧される南海トラフ地震、首都直下地震等の大規模災害発生時に迅速かつ的確な対応が図れるよう、消防団、自主防災組織等の関係機関・団体との連携を含めた地域の総合的な防災力の強化による震災等大規模災害対策の推進や、緊急消防援助隊登録数の6,000隊規模への増隊など、震災等大規模災害の対策を早急に構築するためにも消防の広域的な応援体制の充実・強化が必要である。

推進期限の迫る消防の広域化については、地域の事情を考慮しつつ、積極的に推進するとともに、消防救急無線についても、その広域化・共同化及び消防指令業務の共同運用や消防防災分野におけるICT技術、G空間情報の利活用の推進を進める必要がある。

出動件数が増加している救急については、消防と医療の連携による救急搬送体制の強化、ICT技術を活用した救急業務の高度化への対応、市民等への応急手当や救急安心センター事業（#7119）の普及促進など、救急業務の更なる充実を推進する必要がある。

防火対象物等の防火・防災安全対策の推進については、住宅用火災警報器の設置率の向上と併せ、その維持管理等を含めた総合的な住宅防火対策の推進や、簡易宿泊所・飲食店などにおける消防法令違反等の是正の徹底、さらに国が進める「民泊サービス」等の新たな法整備についての対応等、ソフト・ハード両面にわたる防火・防災安全対策を推進する必要がある。

また、危険物施設における火災・流出事故の発生件数は依然として多く、関係事業者への安全対策の徹底や作業従事者の保安意識の向上など事故防止対策を推進する必要がある。

今後も人口減少や高齢化の進展等社会の諸情勢を捉えながら、消防・救急需要に的確に対応するため、あらゆる消防力の基礎となる消防職員の確保や消防装備の充実、消防庁舎等の整備に適切かつ積極的に取り組んでいく必要がある。

消防職員の処遇改善については、消防職員委員会制度の充実を含めた勤務条件や勤務環境の向上、職場におけるハラスメント防止対策の徹底を図り、また、災害現場や訓練等における受傷事故防止のための安全管理対策の一層の推進が必要である。

さらに、職場環境の整備を含めて消防防災分野における女性の活躍推進に取り組んでいかねばならない。

我々全国の消防長は、自治体消防制度70周年を迎えるにあたり、消防防災行政が直面するこのような諸課題に対し、地域住民が安心して暮らせる災害に強い安全なまちづくりの実現に向け、消防防災体制の充実・強化を図るものとし、平成29年度においては、次の事項を重点として事業を推進するものである。

- 一、震災等大規模災害対策の推進
- 一、消防広域応援体制の充実・強化
- 一、消防の広域化への対応
- 一、消防救急無線の広域化・共同化及び消防指令業務の共同運用への対応
- 一、救急搬送体制の強化、救急業務高度化への対応及び市民等への応急手当の普及促進
- 一、防火対象物等の防火・防災安全対策の推進
- 一、危険物施設の事故防止対策の推進
- 一、消防・救急需要に的確に対応した消防職員の確保及び消防装備等の充実
- 一、消防職員の処遇改善と安全管理対策の更なる推進及び女性の活躍推進

以上、全国消防長の総意をもって決議する。

平成29年5月24日

第69回全国消防長会総会

※ 前記の要望及び決議については、6月下旬に総務大臣、消防庁長官等に要望活動を行い、実現に向け関係者に働きかけを実施してまいります。

◆ 一般財団法人全国消防協会通常理事会を開催

一般財団法人全国消防協会

平成29年5月23日（火）、愛知県名古屋市（ウェスティンナゴヤキャッスル）において、一般財団法人全国消防協会通常理事会を開催しました。

通常理事会における議案審議事項、報告事項等については、次のとおりです。

【議案審議事項】

- 第一号議案 平成28年度事業報告及び決算について
- 第二号議案 平成28年度公益目的支出計画実施報告書等の提出について
- 第三号議案 定時評議員会の開催について
- 第四号議案 臨時評議員会の開催について
- 第五号議案 第47回全国消防救助技術大会の開催について
- 第六号議案 賛助会員の加入について

【報告事項】

- 1 職務の執行状況の報告について
- 2 次期通常理事会の開催について
- 3 第46回全国消防救助技術大会スローガン等について
- 4 新規事業の事業化調査の実施結果について
- 5 「指定店制度に関する規程」の制定について
- 6 平成28年度消防機器の改良及び開発並びに消防に関する論文の表彰及び最優秀賞受賞者による発表の実施について
- 7 全国消防長会70周年記念事業検討委員会の動向等について
- 8 東京2020参画プログラムへの参画について
- 9 平成29年度の消防団体保険事業の現状と推進状況について
- 10 消防職員介護保険の新設について

【資料配布】

- 1 役員等の状況について
- 2 賛助会員の紹介について



【通常理事会の様子】

◆ 全国消防長会常任理事会を開催

全国消防長会

平成29年5月23日（火）、愛知県名古屋市（ウェスティンナゴヤキャッスル）において、全国消防長会常任理事会を開催しました。

常任理事会における議案審議事項、報告事項等については次のとおりです。

【議案審議事項】

- 第一号議案 平成28年度事業報告及び平成28年度収支決算について
- 第二号議案 平成29年度事業計画（案）及び平成29年度収支予算（案）について
- 第三号議案 平成30年度国の予算概算要求に関する要望について
- 第四号議案 平成29年度及び平成30年度全国消防長会役員の改選について
- 第五号議案 事業推進委員会設置運営規程の一部改正について
- 第六号議案 ハラスメント防止宣言について
- 第七号議案 第70回全国消防長会総会の開催について
- 第八号議案 次期常任理事会の開催について
- 第九号議案 第69回全国消防長会総会決議について

【報告事項】

総会と同内容

【資料配付】

総会と同内容



【常任理事会の様子】

◆ 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等特別委員会を開催

全国消防長会

平成29年5月23日（火）、愛知県名古屋市（ウェスティンナゴヤキャッスル）において、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等特別委員会を開催しました。

特別委員会における、報告事項については次のとおりです。

【報告事項】

- 1 公益財団法人ラグビーワールドカップ2019組織委員会からの情報提供について
- 2 公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会からの情報提供について
- 3 東京消防庁からの情報提供について
- 4 東京2020参画プログラムへの参画について
- 5 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会等特別委員会の名称変更及び委員の追加について
- 6 特別委員会等スケジュール（案）について



【特別委員会の様子】

◆ 消防特別功労・消防行政功労表彰を実施

全国消防長会

平成29年5月24日（水）、愛知県名古屋市（ウェスティンナゴヤキャッスル）において、消防特別功労表彰196名を代表し、尾三消防本部安藤消防長に、消防行政功労表彰18名を代表し、富田林市消防本部後藤消防長に対し、それぞれ高橋会長から表彰状が授与されました。



【消防特別功労代表受賞者の安藤消防長】



【消防行政功労表彰代表受賞者の後藤消防長】

◆ 第40回全国消防職員意見発表会の開催及び審査結果

全国消防長会

平成29年5月24日(水)、全国消防長会総会会場において、第40回全国消防職員意見発表会を開催し、全国9支部から選ばれた10名の消防職員により、消防業務に対する提言や取り組みべき課題等について発表がありました。

発表内容及び審査結果については、次のとおりです。

賞 別	支部名	氏 名	消防本部名	発表テーマ
最優秀賞	東近畿	上羽 勝	乙訓消防組合消防本部	火事の「お・し・て・119」
優 秀 賞	九 州	宮城 貴洋	那覇市消防局	お店でつなぐ、救急みちの駅
優 秀 賞	東 北	佐藤 綾	盛岡地区広域消防組合 消防本部	命の点滅サイン
入 賞	近 畿	藤内 翔介	姫路市消防局	みんな笑顔で備える地域防 災
入 賞	中 国	石飛 雄士	雲南広域連合雲南消防 本部	心をつかむ～3つの流儀～
入 賞	四 国	増田 晃輝	徳島中央広域連合消防 本部	防災アプリが作る災害に強 い町
入 賞	北海道	滝沢 大	函館市消防本部	「VR」でレベルアップを
入 賞	関 東	吉新 託也	宇都宮市消防局	介護と救急の将来を見据え て
入 賞	関 東	鈴木 啓太	小田原市消防本部	未来の消防力につながる外 国語
入 賞	東 海	崎村 委代	東海市消防本部	バリアフリーを目指して

※ 優秀賞、入賞の発表者については、発表順です。



【最優秀賞を受賞した上羽勝さんの意見発表】



【記念撮影】

※ 最優秀賞、優秀賞の発表の様子(YouTube)は、後日、全国消防長会ホームページ (<http://www.fcj.gr.jp/>) に掲載予定です。

◆ 平成28年度消防機器の改良及び開発並びに消防に関する論文の表彰及び発表を実施

一般財団法人全国消防協会

平成29年5月24日(水)、全国消防長会総会会場において、平成28年度に募集した消防機器の改良及び開発並びに消防に関する論文のうち、会長賞を受賞した作品を表彰しました。

また、表彰式の後、最優秀賞の受賞者による発表を実施しました。

受賞者及び発表作品等については、次のとおりです。

【受賞者(太字は表彰式出席者)】

1 機器の部

賞区分	消防本部名	氏名		
最優秀賞	橋本市消防本部	芝 浩民	中谷 英司	桐原 良威地
秀 賞	東近江行政組合消防本部	奥川 竜次		西村 卓
	さいたま市消防局	矢部 祐一郎		
	金沢市消防局	井波 忠夫		
	姫路市消防局	塚原 昌尚		
	嶺北消防組合消防本部	上野 惣一	久保 和輝	田中 駿平
	松山市消防局	八木 大五郎	森本 大樹	浅海 敬太
優 賞	備北地区消防組合消防本部	児玉 高志		杉谷 直紀
	糸魚川市消防本部	弓矢 弘毅	川合 喜代昭	中林 裕章
	釧路市消防本部	堂下 秀二	猿子 倫章	甲斐 崇浩
	鯖江・丹生消防組合消防本部	渡邊 章雄		有澤 拡
	北九州市消防局	中村 昇太		
	永平寺町消防本部	西村 光平		矢部 太輝
	名古屋市消防局	須賀 哲郎	矢部 智也	山本 直也
	宇都宮市消防局	黒尾 真也		
久留米広域消防本部	塚本 和典			

2 論文の部

賞区分	消防本部名	氏名	
最優秀賞	福岡市消防局	友納 佑介	
秀 賞	神戸市消防局	樋口 貴洋	
優 賞	神戸市消防局	水門 浩一	
	横浜市消防局	森屋 司	羽山 力

【発表者及び発表作品】

1 機器の部

消防本部名	氏名	発表作品
橋本市消防本部	芝 浩民 中谷 英司 桐原 良威地	訓練用水消火器の改良について

2 論文の部

消防本部名	氏名	発表作品
福岡市消防局	友納 佑介	GPS機能及び地図・地形図アプリを活用した救助活動について



【発表の様子】



【記念撮影】

◆ 第46回全国消防救助技術大会スローガン等の決定について

一般財団法人全国消防協会
 仙台市消防局

平成29年8月23日（水）、宮城県宮城郡利府町において開催予定の「第46回全国消防救助技術大会」で使用するスローガン等を次のとおり決定しましたのでお知らせします。

1 大会スローガン

『 結 ～ 感謝そして未来へ ～ 』

2 大会シンボルマーク

右図のとおり



大会シンボルマークは、仙台市内の高校生の皆さんから、仙台市消防局のマスコットキャラクター「レスキューまさむね君」をモチーフとしたデザイン案を募集し、最優秀賞に選出された米倉すみれさん（学校法人三島学園 東北生活文化大学高等学校）のデザイン案を基に作成しました。

これまでと違ったタッチで描かれた「レスキューまさむね君」の隣には、伊達政宗公の正室「愛姫（めぐひめ）」をイメージして描かれた女性レスキュー隊員「めぐちゃん」が描かれています。

二人の生き生きとした動きや表情には、大会スローガン『結～感謝そして未来へ～』に込められた“未来を切り開く”という開催地の想いが表現されています。

同様に、二人の周りに描かれた赤いリボンには、“人と人、心と心の結びつき”を大切にし、“感謝”を伝えるという意味が込められています。

仙台市消防局マスコット
 レスキューまさむね君



（伊達家伯記念會協力）

3 その他

シンボルマークの使用については、第46回全国消防救助技術大会仙台・宮城実行委員会事務局（仙台市消防局総務部総務課内）までお問い合わせください。

消防本部の動き

行事

◆ 園児消防見学会を開催

人間東部地区消防組合消防本部（埼玉）

人間東部地区消防組合消防本部では、平成29年5月16日（火）に東消防署、17日（水）に西消防署で園児消防見学会を開催しました。

今年度で40回を迎えるこの見学会は、管内の幼稚園や保育園などの園児を対象に、幼少期における防火教育の一環として毎年度実施しています。今年度は2000人近い園児が参加し、防火演劇や救出訓練を見学しました。

参加者と一体となって行われた演劇や訓練では、園児から大きな声援が送られていました。また、最後の一斉放水では、大きな歓声が上がりました。

当消防本部では、これからも将来を担う子ども達への防火思想の普及啓発活動を続けていきます。



【見学会の様子】

訓練・演習

◆ 吏員命令の実務訓練を実施

かかみがはらし 各務原市消防本部（岐阜）

各務原市消防本部では、平成29年5月2日（火）及び17日（水）、これから予防行政へ携わる職員の裾野を広げるため、消防吏員命令の実務訓練を実施しました。

訓練では、今年度新たに消防署の予防係に配属された係員と違反処理の経験のある係員が協力して、消防署の庁舎を仮想防火対象物に見立て、消防法第5条の3の吏員命令の発令を行いました。吏員命令の判断基準を数値化することで現場での判断が見える化した吏員命令発令基準表を用いた命令の判断や上司への合議方法、書類作成の方法等、違反処理の手順の確認を行うことができました。

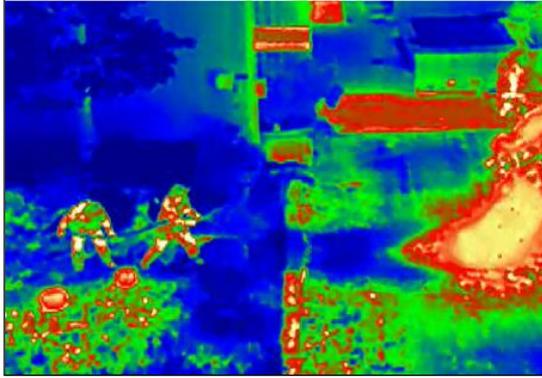


【訓練の様子】

◆ 赤外線カメラ搭載ドローンを活用した連携訓練を実施

鳴門市消防本部では、平成29年5月15日（月）、休校中の北灘東小学校において、赤外線カメラ搭載ドローンと消防隊・救助隊との連携訓練を実施しました。

訓練は、瓦礫に埋もれた要救助者を赤外線カメラ搭載ドローンで発見し救助する訓練、また濃煙の中で活動する消防隊の監視等を実施し、ドローンと地上隊との連携によるドローンの有効性を確認しました。



【赤外線カメラ映像：濃煙で活動する2名の消防隊員と火源】

鳴門市消防本部（徳島）



【訓練の様子】

◆ 硬質ウレタンボート取扱い訓練を実施

黒川地域行政事務組合消防本部（宮城）

黒川地域行政事務組合消防本部では、平成29年5月16日（火）及び17日（水）、大衡村の牛野ダムにおいて、硬質ウレタンボート取扱い訓練を実施しました。

このボートは、平成27年9月に発生した関東・東北豪雨を受け、水害や水難救助等に備えるようにと、仙台市の震災復興支援グループ「きぼう」の仲介により、名取市の株式会社タガ・アートと静岡県浜松市の浜口ウレタン株式会社より平成29年1月に無償貸与されたもので、穴が開いても沈まず、通常のゴムボートが使えない場面においても使用することができます。

訓練では、入水想定場所までの車輪を使用した移動要領、船体入水、さらには既存配備の組立て式アルミボートやゴムボートと比較しての操船訓練を実施しました。例年、既存のボートを使用した訓練を行っていますが、今回の訓練を通じて、より一層の水難救助技術の向上が図られました。



【硬質ウレタンボート】



【訓練の様子】

◆ 水防工法訓練を実施

松山市消防局では、平成29年5月21日（日）、防団、自主防災組織、大学生防災リーダークラブ、陸上自衛隊等と合同で松山市水防工法訓練を実施しました。

当市消防局では水防工法技術指導者（重信川石手川水防等連絡会が実施する水防工法指導者養成技術講習を受講し、指導者としての技術を修得した者です。）を養成しており、今回の訓練でも9名の職員が指導員として参加しました。

指導員は、参加者にロープワーク、シート張り工法、月の輪工法等を適切に指導するとともに、梅雨時期には、気象情報をこまめに確認し、早めの防災・減災行動を心がけるよう普及啓発を行いました。

松山市消防局（愛媛）

松山市の石手川緑地公園において、松山市消



【訓練の様子】

その他

◆ 消防本部・消防署新庁舎竣工式を開催

千曲坂城消防本部（長野）

千曲坂城消防本部では、平成29年5月1日（月）、千曲坂城消防本部・戸倉上山田消防署新庁舎竣工式を開催しました。

旧庁舎は、昭和45年11月1日の開庁以降、増改築を重ね運用してまいりましたが、経年に伴い庁舎の老朽化が進み、平成27年から2年間に渡り改築工事を行い、平成29年3月28日に工事が無事完了しました。

新庁舎は、耐震性能を有するとともに、隊員の出勤動線や女性職員を含めた当直勤務に従事する職員が、職務により一層専念できるような生活環境に配慮した構造としました。また、改築とあわせて整備された高機能消防指令装置により、的確で迅速な消防業務を可能とし、複雑多様化する災害において今後の消防防災活動が十分に発揮できる施設となっています。



【テープカットの様子】



【内覧会の様子】

◆ オーストラリアの消防職員が六本木ヒルズと消防署を視察

東京消防庁（東京）

東京消防庁麻布消防署では、平成29年5月22日（月）、オーストラリア連邦クイーンズランド州消防局のステーションオフィサー（消防司令相当の階級）ジャスティン・フランシスさんが来署し、当消防署の消防資器材等の視察を実施しました。

フランシスさんは世界主要都市の高層建築物における消防関係の調査のため来日し、今後シンガポール、上海、ニューヨーク、ボストン、トロント、ストックホルム、ヘルシンキ、ロンドン及びドバイへの訪問を計画しています。

当消防署管内を代表する超高層建築物である六本木ヒルズ森タワー（港区六本木6）の消防用設備等を視察後に来署したフランシスさんは、超高層建築物火災対応時の消防隊の資器材活用要領、特殊消防対象物警防計画等について署員と意見交換を行い、オーストラリア及び今までに視察した諸外国の災害事例や建築法令についても情報提供していただき、お互いに大変有意義な時間を過ごしました。



【消防署視察の様子】

消防学校からの便り

◆ 初任教育研修生が地域の一斉清掃に参加

札幌市消防学校（北海道）

札幌市消防学校では、平成29年5月13日（土）に行われた札幌市西区を流れる琴似発寒川^{ことにはっさむがわ}周辺における地域住民や区内の企業・団体による春の一斉清掃に、初任教育研修生51名が参加しました。

研修生は、地域住民との交流を通して顔の見える関係をつくるのが、地域における円滑な消防行政の推進につながることを学びました。また、清掃終了後、教官から河川堤防の構造について説明を受け、水防工法についても学びました。



【一斉清掃の様子】

消防庁通知等

◆ 全国版救急受診アプリ（愛称「Q助」）の周知について（依頼）（5月25日、消防救第105号）

消防庁救急企画室長より、各都道府県消防防災主管部長、東京消防庁・各指定都市消防長あてに次のとおり通知されましたのでお知らせします。

平素より、救急行政の推進について御尽力いただき御礼申し上げます。

近年、救急搬送件数は、高齢化の進展等によりほぼ一貫して増加しており、このような状況が続けば、真に必要な傷病者への対応が遅れ、救命率に影響が出る可能性があります。このため、昨年度開催した「救急業務のあり方に関する検討会」において、緊急度判定支援ツール等の検討を行ってきました。

この度、住民による緊急度判定を支援し、利用できる医療機関や受診手段の情報を提供するため、緊急度判定プロトコル ver. 2（家庭自己判断）をもとに、「Q助（きゅーすけ）」のスマートフォン版及びWeb版を開発し、5月25日（木）から提供を開始することとしました。

住民による積極的な活用が重要であることから、広報用のチラシや動画（15秒）などを活用して、住民に広く周知していただくようお願いします。

貴職におかれましては、下記事項に留意されるとともに、各都道府県にあつては、貴都道府県内の市町村（消防の事務を処理する一部事務組合等を含む。）に対して、この旨周知されるようお願いいたします。

○ 全文は、消防庁ホームページ

(http://www.fdma.go.jp/concern/law/tuchi2905/pdf/290525_kyu105.pdf) に掲載されています。

【問い合わせ先】

救急企画室

担当：森川専門官、小川係長、中西事務官

◆ 平成29年度消防の連携・協力のモデル構築事業の委託に関する提案募集について（5月26日、消防消第138号）

消防庁消防・救急課長より、各都道府県消防防災主管部長、東京消防庁・各指定都市消防長あてに次のとおり通知されましたのでお知らせします。

消防の連携・協力のモデル構築事業（平成29年度当初予算関係）として、下記のとおり提案募集を行いますので、お知らせします。

各都道府県にあつては、貴都道府県内の市町村（消防の事務を処理する一部事務組合等を含む。）に対して、この旨周知されるようお願いいたします。

記

1 委託先

消防の連携・協力の取組を進める意欲がある消防本部又は当該消防本部を管内に持つ都道府県で、別添（省略）の募集要領の各要件を満たすもの。

2 委託事業の内容

「消防の連携・協力の推進について」（平成29年4月1日付け消防消第59号）に基づき、消防庁において消防の連携・協力をより効果的に推進していくため、関係消防本部間の調整や連携・協力実施計画の策定などの消防の連携・協力をを行うために必要となる事項について、消防本部が消防の連携・協力の検討を開始する際の参考となる優良事例を構築するもの。

3 提案書の提出

(1) 提出期限

平成29年6月16日（金）12時（必着）

(2) 提出方法

応募団体においては、別添（省略）の募集要領に従って提案書等を作成し、電子メールにて下記提出先まで提出すること。

(3) 提出先

総務省消防庁消防・救急課（担当：伊藤、谷口、井木）

電話：03-5253-7522

E-mail：keibou@ml.soumu.go.jp

報道発表

◆ 全国版救急受診アプリ（愛称「Q助」）の提供開始（5月25日、消防庁）

消防庁では、住民のみなさまが急な病気やけがをしたときに、医療機関を受診するタイミングや手段、利用できる医療機関及び受診手段の情報を提供し、緊急度に応じた必要な対応を支援するため、「Q助（きゅーすけ）」の提供を開始しましたので、お知らせします。

1 「Q助」の概要

急な病気やけがをしたとき、該当する症状や症候を画面上で選択していくと、緊急度に応じた必要な対応が、緊急性をイメージした色とともに表示されます。その後、119番通報、医療機関の検索（厚生労働省の「医療情報ネット」にリンク）、受診手段の検索（一般社団法人全国ハイヤー・タクシー連合会の「全国タクシーガイド」にリンク）が可能です。（以下省略）

○ 全文は、消防庁ホームページ

(http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/houdou/h29/05/290525_houdou_1.pdf) に掲載されています。

【問い合わせ先】

救急企画室

担当：森川、小川、中西

※ 消防庁各課室の直通電話番号は (<http://www.fdma.go.jp/neuter/about/tel.html>) に掲載されています。

週間情報では、各本部の身近な情報を掲載していますので情報をお寄せ下さい。

週間情報への投稿は企画課へ！

TEL 03-3234-1321 FAX 03-3234-1847 E-mail：weekly@fcaj.gr.jp